

第11回HPDU杯全国大会 各都道府県代表校
学校長 様
英語ディベート担当教員 様

日本高校生パラメンタリーディベート連盟
HPDU of Japan

第11回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 HPDU Competition 2022 (Co-sponsored by HPDU and ESUJ) 実施要領

新型コロナウイルス対策のため、以前に発表したものから大幅に変更し、自宅から参加できるオンラインで開催することにいたしました。

- 共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟(HPDU of Japan)
一般社団法人 日本英語交流連盟 (The English-Speaking Union of Japan)
- 後援：文部科学省 (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology)
：ブリティッシュ・カウンシル (British Council)
カナダ大使館 (Embassy of Canada to Japan) 申請中
- 特別協賛：有限責任 あずさ監査法人 (KPMG AZSA LLC)
- 協賛：公益財団法人 日本英語検定協会 (Eiken Foundation of Japan)
iae グローバルジャパン株式会社 (iae GLOBAL JAPAN, Inc)
株式会社テレビ東京 (TV TOKYO Corporation)
キャノン株式会社 (CANON INC.)
キャノンマーケティングジャパン株式会社 (Canon Marketing Japan Inc.)
ANA ホールディングス株式会社 (ANA HOLDINGS INC.)
- メディアパートナー：読売新聞社 (THE YOMIURI SHIMBUN)
- 協力：株式会社アルク(ALC PRESS INC.)
イーエムティー株式会社(Energy Management Technologies KK)
エイムネクスト株式会社 (AIMNEXT Inc)
株式会社E d u L a b (EduLab, Inc.)
株式会社オールアバウト (All About, Inc.)
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 (Japan Philharmonic Orchestra)

1 趣 旨

全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

2 日時

- 1) 全国大会予選 (44 チームを予定) 2022 年 3 月 26 日 (土) 8:50~17:45 頃
- 2) 決勝トーナメント (上位 8 チーム) 2022 年 3 月 27 日 (日) 9:00~16:00 頃

3 場所

Zoom を使用して実施するため各自 Wi-Fi 環境が整っている場所をご用意してください。また、大会当日の連絡などには LINE を使用します。参加選手および顧問の先生は予め Zoom と LINE のアカウントを取得してください。

4 内容

World School's Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による英語ディベート大会 1 チーム 3 名、予選 4 試合(2、3、4 試合目はパワーペアリング) 各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位 8 チームを決め、決勝トーナメント

5 参加資格

日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された各都道府県大会に参加して出場権を獲得した高校の生徒、または本連盟より特別に出場権を与えられた者(同一都道府県内の出場希望校が一枚のみであった場合など)。

6 参加手続き

- ・ 2 月 26 日 (土) 19:00 までに、下記の選手登録フォームからお申し込みください (期限厳守)。

選手登録フォーム <https://forms.gle/rJXmb6aGoMr6VX9EA>

上記のアドレスを貼り付けて、フォームを開いてください。

- ・ 3 月 1 日 (火) までに、参加費 3,000 円を下記の口座に**学校名で**お振込みください。

振込先銀行：埼玉りそな銀行 伊奈支店

普通預金 口座番号： 3916652

振込先口座名義：日本高校生パラメンタリーディベート連盟

ニホンコウコウセイパラメンタリーディベート連盟

- ・ 3 月 8 日 (火) までに、全選手の撮影同意書を hpduofjapan@gmail.com にお送りください。

なお、撮影同意書は HPDU のホームページよりダウンロードしプリントアウトしてご利用ください。

※以上の 3 点をもって出場登録となります。期日までに上記すべてが行われない場合、出場が認められない場合があります。

7 大会の日程 (オンラインのため変更の可能性あり)

第 1 日目 予選

8:50 点呼、開会式

9:20 第 1 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20 分)

9:45 第 1 試合 (約 50 分)

10:35 ジャッジによる勝敗の説明 (30 分)

11:25 第 2 試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20 分)

- 11:55 第2試合 (約 50 分)
- 12:45 ジャッジによる勝敗の説明 (30 分)
- 13:15 休憩 (昼食)
- 13:50 第3試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20 分)
- 14:15 第3試合 (約 50 分)
- 15:05 ジャッジによる勝敗の説明 (30 分)
- 15:55 第4試合 対戦表・論題発表 (準備時間 20 分)
- 16:25 第4試合 (約 50 分)
- 17:15 ジャッジによる勝敗の発表なしのアドバイス (20 分)
- 17:35 解散 (結果発表は SNS で行います)

第2日目 決勝トーナメント

- 9:00 点呼
- 9:30 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25 分)
- 10:00 準々決勝 (約 50 分)
- 11:15 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25 分)
- 11:40 準決勝 (約 50 分)
- 12:30 休憩 (昼食)
- 13:00 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 25 分)
- 13:30 決勝 (約 60 分)
- 15:00 閉会式

8 試合形式

[対戦組み合わせについて]

第1試合の対戦組み合わせは事前にランダムで決める。予選2～4試合目はパワーペアリングによって決める。予選4試合の勝敗数、そして勝敗数が同じチーム間ではスピーカーズ・スコアの総得点で、予選の順位を決定する。上位8チームが決勝トーナメントに進出し、準々決勝では予選の成績が良かった順に1～8の番号を振り、以下の通りで対戦を行う。

- 準々決勝 A: team 1 対 team 8 準々決勝 B: team 2 対 team 7
- 準々決勝 C: team 3 対 team 6 準々決勝 D: team 4 対 team 5

[試合開始前の準備時間について]

論題は、予選では試合開始の20分前に発表される。論題発表後以降は、ディベーターはチームメイト以外の人との相談は禁止とする(顧問との相談も禁止)。

決勝トーナメントでは、準備時間は25分とする。高価な道具を用意できたかどうかによって勝敗が左右されることがないように、論題発表以降は、ストップウォッチ、電子辞書専用機を除いた電子機器の使用は禁止する。

[スピーチの順番および時間]

試合の流れ 準備時間 第一日目20分、第二日目25分

- 1) 1st Affirmative Speaker 【5分】
- 2) 1st Negative Speaker 【5分】

- 3) 2nd Affirmative Speaker 【5 分】
- 4) 2nd Negative Speaker 【5 分】
- 5) Government Whip 【5 分】
- 6) Opposition Whip 【5 分】
- 7) Opposition Reply 【4 分】
- 8) Government Reply 【4 分】

*決勝のみ Constructive Speech を各 7 分とします。

最初の 6 つのスピーチ(Constructive Speech)の時間は各 5 分間、ただし決勝ラウンドのみ各 7 分間。Reply Speech は 4 分間。各 Constructive Speech の最初と最後の 30 秒間(決勝戦のみ 1 分間)を除いた時間では、対戦相手のチームは Point of Information (質問、反論、コメント)を行うことができ、Point of Information がスピーカーから許可された場合、最長で 15 秒話すことができる。

Reply Speech は、チームの 1 人目または、2 人目のスピーカーのいずれかが行い、Whip Speaker が Reply speech を行うことはできない。

[スピーカーの役割]

- ・各チーム最初の 2 人のスピーカーは、それぞれ肯定または否定側の議論を示し、また相手チームの議論に最低限の反論をする。
- ・3 人目の Whip speaker は、主に相手チームの議論への反論、そして反論された内容を受けての議論の立て直しを行う。より詳しいやり方については、HPDU のホームページの「参考資料」内「Whip を極める」を参考にしてください。
- ・Reply Speech では、どうして自分たちのチームがその試合で勝利したのか、いくつかの争点に絞って説明を行う。

9 評価方法

[勝敗について]

- ・各試合では、勝敗と各スピーカーの個人得点が決められる。
- ・Constructive Speech では、右の表で示すとおり、75 を基準に上下 8 点の幅で各スピーチに得点が与えられ、Reply speech では、37.5 を基準に上下 4 点の幅で得点が与えられる。
- ・予選ではジャッジが試合終了後に口頭で試合の勝敗とその理由を説明する。

Standard	Overall
Excellent	82-83
Good	79-81
Above Average	76-78
Average	75
Below Average	72-74
Poor	69-71
Extremely Poor	67-68

Standard	Overall
Excellent	41 – 41.5
Good	39.5 – 40.5
Above Average	38 – 39
Average	37.5
Below Average	36 – 37
Poor	34.5 – 35.5
Extremely Poor	33.5 – 34

[表彰について]

- ・チーム成績は、まず試合の勝ち数で順位を出し、同じ勝ち数のチーム同士の、個人得点の合計を比べて出します。
- ・チーム成績の順位について、勝ち数が同じ、そして個人得点の総点と同じチームがあった場合、以下の

- 様にして最終的な順位を決定します（表彰などで順位を確定させる必要がある場合）：それぞれが対戦したチームの勝ち数の合計→（上記の合計が同じ場合）それぞれが対戦したチームの個人得点の合計
- ・個人成績は、個人得点の累計で出します。

10 注意事項

- ・ディベーターは試合中に時間を計る際はストップウォッチかタイマーを使用してください。
- ・ディベーターは準備時間内にチーム内の者以外と相談することはできません。
- ・ディベーターは準備時間内そして試合中に、電子辞書を除いた電子機器(例 インターネット接続機能を持ったタブレット・コンピューター等)を資料の検索を目的に使用することはできません。
- ・ディベーターは準備時間内そして試合中に、書籍など、辞書以外の紙媒体の資料を閲覧することはできませんが、自作の資料ノートやコピーをファイルしたもの、フォーマットが書かれたプリントの使用は許されています。
- ・**Point of Order**（試合中に対戦相手のルール違反を指摘する行為）は禁止します。ルール違反があった場合、ジャッジが判断をするものとします。試合進行上支障をきたすルール違反があった場合、ジャッジが適切な処置をします。
- ・**Constructive Speech** に対して **Point of Information (POI)** を行う場合「Point」「Point of Information」といった表現で POI による発言の許可をスピーカーに求めてください。5分間の最初と最後の30秒間（決勝は7分間なので最初と最後の1分間）は POI 不可。POI により発言を許可された者は、15秒間だけ発言を許されます。**Reply Speech** に対しては POI 不可。
- ・相手チームの顧問の承諾なしに、試合を録音、撮影、録画することは禁止です。
- ・HPDUの記録担当が撮影したのに関しては、後日、HPDUやESUJのホームページ、後援・共催・協力団体への報告書、HPDUやESUJについての説明会や講演で使用することがあります。ご了承ください。
- ・大会の様子は読売新聞が取材し、同社の媒体で紹介される予定です。写真撮影も行うこともあるかもしれませんが、参加者全員の「撮影同意書」提出が大会の参加条件になりますので、よろしく願いいたします。読売新聞の記事に関しても HPDU や ESUJ の報告書などで使用することがあります。
- ・急な発熱などにより選手を変更せざるをえない場合は、大会前日の19時まで連絡してください。代わりの選手が見つからず、2名以下での参加となってしまった場合は、個人賞の対象にはなりますが、優勝トーナメントには出場できません。

11 オンライン利用の大会実施に関する注意事項

- ・スマートフォンを各自一台用意してください。また、Zoom と LINE を使用しますので、参加選手と顧問はアカウントを取得してください。
- ・今大会はオンラインで行うため、通常の運営と異なることが多々あります。たとえばスケジュールや進行にスムーズに行かない可能性があることもご了承ください。
- ・オンラインによる大会なのでネット回線がある環境が用意できることが参加条件になります。各参加者は必ず適切な環境で試合ができるように事前に準備をしてください。
- ・自宅で参加できるということにより気が緩むことがあるかもしれませんが、「10 注意事項」を守り、不正は絶対に行わないようお願い致します。万が一、不正が発覚した場合は、その選手が所属している学校は HPDU が開催する大会に一年間参加できなくなります。
- ・準備時間中にチーム内でメッセージ等をすることは可能ですが、対面での試合と同様に、スピーチ中のチームメイトにチャット等を通してアドバイスをしたり文面を送ったりすることは禁止です。万が一、不正が発覚した場合は、その試合は失格となります。

・試合中の Zoom での回線トラブルに関するルールは、以下になります。

- 1) 各試合において、各チームは、合計10分間以上、回線トラブルのために試合を中断させた場合、失格となる。
 - 2) 回線が落ちたスピーカーが5分経って戻って来ない場合は他の人が代わりにスピーチを行うこと。そのスピーチについての個人スコアは無効となる。
 - 3) Zoom での回線が落ちた場合に各人が行うべきこと：
 - 自分の回線が落ちた場合：まずストップウォッチを止め、事前に配布するトラブル・シューティングに従い、復旧に努める。
 - スピーチ中のチームメイトの回線が落ちた場合：その選手が5分経っても戻ってこなかった場合は、代替りのスピーカーがスピーチの続きを行う。
 - 相手チームのスピーチ中に、それに反論する次のスピーカーの回線が落ちて5分経っても戻ってこない場合：その選手のスピーチは、代替りの選手が行う。
 - ジャッジの回線が落ちた場合：スピーチ中であれば、①ストップウォッチを止める。→②ジャッジが戻ってくるまで待つ→③ストップウォッチの時間を確認して再開してもらう。
- ・オンラインでの試合を安定して実施するために、外部からの試合観戦については原則遠慮して頂いております。試合会場に入れるのは、試合をする選手、ジャッジ、試合をする学校の方1名(顧問やコーチなど)、本大会の運営(HPDU 関係者)のみです。

12 各種教育奨励賞

- 1) ESUJ 賞：コロナ禍での英国 ESU Debate Academy 開催困難なことに鑑み、優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。
- 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
- 3) 日本英語検定協会賞：予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームに音楽CDを贈呈。
- 5) キヤノン賞：優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈。
- 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈。
- 7) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

13 第11回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯(HPDU杯)実行委員および役員

委員長 北原隆志(渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭、HPDU 理事長、ESUJ 特別参与)

事務局 古賀記洋子(日本大学第一高等学校教諭、HPDU 理事、HPDU 事務局長)

吉野舞起子(ESUJ 事務局長、ESUJ 理事)

実行委員 小林良裕(豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程在籍、HPDU 理事、ESUJ 特別参与)

前田 和(埼玉県立久喜北陽高等学校教諭、HPDU 理事)

浜野清澄(さいたま市立浦和高等学校教諭、HPDU 理事)

西崎真広(帝京大学中学校・高等学校教諭、HPDU 理事)

天海揚介(OBOG 代表、HPDU 理事)

須田智之(筑波大学附属駒場中・高等学校教諭、HPDU 理事)

大関朝美(富士見中学校高等学校教諭、HPDU 理事)

河野 周(聖光学院中学校高等学校教諭、HPDU 理事、ESUJ 特別参与)

神崎花南(慶應義塾大学ディベート部)

- 名誉顧問 明石 康 (公益財団法人 国立京都国際会館理事長、ESUJ 副会長、元国連事務次長)
沼田貞昭 (ESUJ 会長、元駐カナダ大使)
- 監事 油井直次 (元公益財団法人 日本英語検定協会会長)
- 顧問 加藤一郎 (千葉大学客員教授、元全農代表理事専務)
新庄一郎 (弁護士、元検察庁検事正)
酒井弘行 (公認会計士、元 KPMG ジャパン 日本代表、元あずさ監査法人理事長)
下野雅承 (元日本 IBM 社長)
讃井暢子 (元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事)
- 大会主顧問 岡田真樹子 (ESUJ 常務理事、元山梨英和大学教授)
- 大会特別顧問 綾部 功 (東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科准教授、ESUJ 理事)
中川智皓 (大阪府立大学工学研究科機械工学分野准教授、PDA 代表)
- 西日本代表 西山哲郎 (静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐)
- 四国・九州代表 加藤 彰 (九州大学 非常勤講師/学術研究者)
- チーフコーチ 小野暢思 (合同会社 Tokyo Debate Academy 代表)
- ・2014 年 ESUJ 大学対抗ディベート大会優勝、2016 年 ESUJ 社会人英語ディベート大会優勝、2017 年第 20 回記念 ESUJ 英語ディベート大会優勝など、国内外の各種パラメンタリーディベート大会で優勝、32 回 ベストスピーカー賞、28 回・2015 年パラメンタリーディベート世界大会 (World Universities Debating Championship) ESL 部門 Quarter Finalist、EFL 部門 4th Best Speaker・各種セミナーの講師を務める。

※HPDU の大会は全てボランティアにより運営されています。

14 最後に

今回は新型コロナウイルス対応のため、急遽オンライン大会での実施することになりました。オンライン大会には予期せぬトラブルが起こることがあるので、スケジュールを初めとして色々と変更せざるをえない部分も出てくるかもしれません。皆様には色々とご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。